

# 平成 29 年度 第 1 回学校関係者評価委員会議事録

日時：平成 29 年 6 月 7 日（水）18：00～19：00

場所：大阪医療福祉専門学校 10 階 1002 教室

司会：澄川事務課長

書記：大槻教務課長

外部：三原 修(業界代表)・段上 靖治(業界・卒業生代表)・田中 幸恵(近隣関係者代表)

田村 千加子(保護者代表)

※欠席：湖崎 淳(業界代表)・橋本 昌浩(業界代表)・岡田 正次(高校代表)

内部：橋本 勝信(常務理事)・武田 裕(学校長)・赤松 滋子(事務局次長)・千葉 一雄(教務学術部長)

岸村 厚志(教務部長)・諸岡 邦行(事務部長)・澄川 良一(事務課長)・大槻 哲也(教務課長)

## 1. 常務理事ご挨拶

(橋本常務理事)

本日はお足元の悪い中、本校学校関係者評価委員会にご出席いただき誠に有難う御座います。

この委員会は本校が自己点検した項目を学校外の皆様から評価をしていただき、更なる改善をしていくことが目的です。当学園では保護者からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼、高校からの信頼という 4 つの信頼を大切にしています。今回の委員の方々はこのような信頼関係の基にお集まり頂いており、学校をより良くするためのプロセスだと思っています。

本日は忌憚のないご意見を賜りたいと思っています。

## 2. 学校長ご挨拶

(武田学校長)

本日はお忙しい中、自己点検評価に関する会議にご出席いただき誠に有難う御座います。

現在、少子高齢化に伴い学生が少なくなっています。現在、当校の学生募集はお陰様で順調に進んでいますが、人材の確保という面では問題化してくることが予測されます。また、高齢化という意味では、今まで病院完結型の医療が展開されてきたが、現在は地域包括ケアシステムに伴う地域完結型の医療サービスが整備されようとしている。本日は、自己点検自己評価を繰り返しながら、上述の人材育成の為に忌憚のないご意見を賜りと思っています。

## 3. 平成 28 年度 自己点検・自己評価の内容説明について

(諸岡事務部長・大槻教務課長)

平成 28 年度本校が実施した自己点検・自己評価内容を、大項目として挙げた 11 項目についての概要を説明する。

- ・教育理念・目的・育成人材像について
  - ・学校運営について
  - ・教育活動について
  - ・教育成果について
  - ・学生支援について
  - ・教育環境について
  - ・学生の募集と受け入れについて
  - ・財務について
  - ・法令等の遵守について
  - ・社会貢献について
  - ・国際交流について
- 以上 11 項目

#### 4. 平成 29 年度重点項目説明について

(赤松事務局次長)

昨年もお伝えしたが、学校運営を行う上で 5 つの数字が重要となる。

まず、平成 28 年度の重点目標の振り返りを行います。学生募集については、335 名の定員に対して 353 名の学生募集を達成することができた。退学率の低減については、学校目標は 4.0%未満としており、実績は 3.99%と何とか目標を達成することができた。学費完納については、経理と教務が連携し、分納制度や奨学金支援等を実施し、完納率 100%を達成することができた。国家試験合格率においても、理学療法士学科 100% (全国平均 96.3%)、作業療法士学科 97.2% (全国平均 90.5%)、視能訓練士学科 100% (96.7%)、言語聴覚士学科 89.7% (全国平均 89.9%)と言語聴覚士学科では若干課題が残ったが、概ね全国平均よりも高い合格率を維持できたかと思われる。次に就職目標については、全員が第一専門職種への就職が決定し 100%を達成することができた。

平成 29 年度の重点項目の中間評価については、職業実践専門課程提携病院は、理学療法士学科 3 件、作業療法士学科 2 件、視能訓練士学科 1 件と業界との連携を強化している。学生募集については、目標 335 名であり、昨年度ほぼ同じ推移をしていることから目標達成ができていると思っている。退学率については、昨年度同様に 4%未満を目標としているが、通年休学者 13 名、休学者 2 名、長欠者 2 名退学者 0 名となっており今後の対策が必要となる。学費については、分納者が 197 名いるが、奨学金の申込みは順調であり、全員完納予定となっている。国家試験対策については、各学科順調に進んでおり、就職活動についても 306 名中 5 名が内定を獲得している。

教員の資質向上では、職能団体に 16 名の教員が所属し役員等を実施している。また大学院修了や在学により、現在、修士・博士 21 名が在籍している。

勤怠については、新システムを導入し働き方改革を少しずつ実施している。一方、授業の満足度を向上させるために、全館に設置した wi-fi を利用し、J クリッカーというアプリケーションにてアクティブラーニングを促進している。

生涯学習の面では、全学同窓会にて卒業生の支援を実施している。しかしながら、参加者が少ないという面が課題となっている。

施設面では、平成 28 年に女子トイレ (6 箇所) を改装し、引き続き、平成 29 年には男子トイレ (4 箇所) を改装した。

防災面については、地震を想定した訓練と火災を想定した訓練の 2 パターンを実施する。いつ起こるかわからない南海トラフ地震への備えを充実させたい。

#### 5. 質疑応答

(三原委員)

報告を聴かせて頂き、非常に矛盾していると思われる点がある。働き方改革に伴う勤怠システムの導入など事務的な対策を実施されている。一方、教育に関しては非常に崇高な目標を立てておられる。働く時間に区切りをつけ労働時間を管理すると、学生指導の時間は必然的に短くなることが予測される。その指導時間をカバーする為に ICT を取り入れた教育を展開されるのだろうかと思うのだが、ICT を活用することで判断力、創造力、課題解決能力が低下することが推測される。すなわち、崇高な教育ビジョンに反する結果になると思われるので、非常に矛盾しているなど感じてしまう。

(赤松事務局次長)

大阪医療福祉専門学校では、変形労働制を取り入れている。働き方を改革し、かつ学生指導の時間は確保するためには、学生対応に合わせた 30 分単位のシフトを組んでいる。したがって、学生指導の質の低下・学生サービスの低下を抑制している。

(田村委員)

娘から授業中教員が不在となり、学生が不安に感じている。実技の指導等をお願いしたくても出来ない状況にある。学生は皆困っていると思う。

(赤松事務局次長)

それは、決して容認できる内容ではないので、早急に調査を実施させて頂く。

調査書を議事録の  
巻末に添付

(三原委員)

教育的観点から、やはり教員は背中をみせて学生指導を行ってほしい。それを見て学生は成長していくものだと思っている。しかしながら、労働基準の問題もあるだろうから、教員の増員することが必要だと思われる。経営面で考えると教員の増員を図ることは難しいことも十分理解している。その点を考慮して、今後取り組んでいかれたら良いのではないかと思われる。

(三原委員)

ボランティア件について、今回非常に力を入れられたと聞いた。実績を見てみると、スポーツに関するボランティアでは高校生を対象としているものが多い。高校生は基本的に言葉が通じるので、介入も行いやすいと思われる。しかしながら、中学生への介入は言葉も不十分だし、高校生に介入するよりも非常に視野を広げてみる力が必要になる。また、地域性も考えると中学生への介入は必要ではないか考える。本来ボランティアは趣味から派生したものであり、中学生への介入を繰り返すことで、本来のボランティアの楽しみなどが解るのはないかと思われる。

(段上委員)

この委員会が発足して質がかなり上がっていると思う。運営方針についてもかなり細かく設定されており、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを設定されている。しかしながら、学校運営を聞いていると学生の数追いをしているように思われる。それに伴って質の低下も感じ取られる。したがって、様々なポリシーに伴う教育内容と学生募集との刷り合わせを数年間掛けて実施できればいいのではないかと思われる。

(千葉教務学術部長)

現在、国では若者の生きる力を養成することを一つのテーマとしている。その中で専門学校は学び直しの場として期待が高まっている。そのような中で教育システムを構築することが必要であるが、あまりにも時代の変化が激しくシステム化はできていない状態である。今後の専門学校では専門教育に加えてキャリア教育を実施することが大切であると考えている。当校では今年からキャリア教育を展開するが、その中で生きる力を身に付ける教育を展開していく予定である。質の担保は難しい部分もあるが、活躍する場所を設定してあげることで学生は能力を発揮できるかもしれない。すぐに答えが出せるものではないが、時間を掛けて解決していくことが必要であると思っている。

(田中委員)

大阪医療福祉専門学校の卒業研究発表会や地域で関わることがある。大阪医療福祉専門学校学生は、人間性に優れている方が多いように思う。教育理念に人間教育を掲げておられるが、それを本当に実践されているように思う。

## 6. 事務連絡

(諸岡事務部長)

6月21日(水)を目処に自己点検自己評価報告書を電子メールもしくは郵送にてご返信をお願いしたい。

## 7. 閉会の挨拶

(千葉学術部長)

本日は、お足元の悪い中、お集まり頂き有難うございます。当校では5つの数字にこだわって取り組んでいます。しかしこれはアウトプットになるのではなく、プロセスを重視したものにならないと思っています。今回の委員会でいただいたご指導を十分にいかし、次回の委員会で報告させていただきたいと思っています。また、今後とも一層のご指導をお願いいたします。

以上

調査報告書

平成 29 年 6 月 7 日に実施されました、学校関係者評価委員会で「授業中教員が不在となり、学生が不安に感じている」とのご指摘がありました。その件に関し調査を行いましたので下記のとおりご報告申し上げます。

記

1. 事象内容

理学療法士学科昼間部 2 年生の授業「総合演習」は、4 月 13 日から 8 月 4 日までの期間で単位履修となる 15 回（90 分×15 回）が実施されています。15 回の授業以外に、4 月 10 日から 5 月 29 日までの月曜日計 90 分×6 回を、復習としてグループ宿題としての課題を行う時間としています。これを復習期間としてとらえています。6 回分は単位として認定せず、自己学習扱いとしています。またグループによってはこれ以外の時間も集まって自己学習しています。

2. 事象の原因：

時間割についての理学療法士学科専任教員の説明不足により、自己学習の時間に関して学生の不安を招いたと思われます。

3. 現状の対応：（理学療法士学科専任教員）

授業開始時にシラバスを配布し、単位として認定する授業の日程や内容、復習にあてる自習の時間の使い方について説明していました。自己学習時には自主的に課題を行うように伝えていました。

4. 今後の対策

上記の説明に加え、

- ①単位認定の授業と復習のための自習時間の違いについて、シラバスに明示する。
- ②単位認定以外は時間割の記載を科目名ではなく「自己学習」と明記し、誤解を招かないよう配慮する。
- ③教室を開放し、任意ではない自己学習に対して教員は常に教室にとどまって質問等にすぐに対応する。

以上の対策を用いて、学生の不安を招かないように対応させて頂く所存です。

「総合演習」の授業は疾病や障害の評価・治療プロセスにおける基礎と臨床を結ぶ総合的思考、課題型学習の実践を学ぶ科目となっています。学生にとって大変重要な内容であり、厚生労働省指定時間の 15 回では足りないと考え、復習の時間として 6 回行っていました。

学生を不安な気持ちにさせてしまったことに対し、お詫び申し上げます。

大阪医療福祉専門学校

教務部長 岸村 厚志

理学療法士学科 学科長 鈴木 操